

平成26年度



農と環境を活かした まちづくりの推進

里地里山保全利活用専門部会

第2回専門部会 説明資料（打ち合わせ資料）



平成26年 9月16日

目次

■平成26年度の活動報告（中間報告）	
01. 活動の目的等	4
02. 今年度の活動概要	5
03. 活動報告	6
04. 次年度の活動（案）	15
■収穫祭での取組み	
01. 実施概要	17
02. 実施予定（案）	18



平成26年度の活動報告（中間報告）



- 3 -

1 活動の目的等

(1) 里地里山保全利活用専門部会の目的

多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、里地里山の保全、再生、活用を目指す。

(2) 取組みの方向性と今年度の具体化施策

取組みの方向性	試行的取組み	具体例
(1) 里地里山保全管理体験の検討	<ul style="list-style-type: none">里地里山体験メニューの検討里地里山体験の試行	1) 取り組みの前提として情報一元化 2) 里地里山の認知促進、保全管理体験、大学連携の一体的取り組み
(2) 里地里山の認知促進	<ul style="list-style-type: none">散策における来訪者の利便性向上自然環境の活用	
(3) 里地里山を活用した大学連携・地域コミュニティづくり	<ul style="list-style-type: none">明治大学黒川農場収穫祭での実施事項の検討 (取組み発表、イベント内容)里山保全を通じたコミュニティづくり	
		3) 大学と連携した黒川地区の里山活動のPR



- 4 -

1) 取り組みの前提として情報一元化

●黒川地域の様々な情報の抽出と地図上への一元化(見える化)

- ・地域の魅力、地域の活動(市民団体活動、援農ボランティア、観光農園、体験農園等)、主な生産物、問題点(ごみ問題等)、地域の催し等を抽出し、地図上に情報を集約化し、今後の取り組みに向けて関係者の情報共有を図る。
- ・専門部会での集約化とともに、農業者等のヒアリングもふまえた情報の集約化を図る。



2) 里地里山の認知促進、保安全管理体験、大学連携の一体的取り組み

◎「体験型散策イベント」の実施

- ・黒川の里地里山情報図より、散策イベントへの情報の抽出。
- ・散策イベントを、明治大学と連携し実施。
- ・散策は、里山体験や地域の魅力発信のみでなく、マナーや環境の向上に関わる取り組み(美化清掃イベント等)もいれるなど、地域の課題への対応も考慮する。
- ・里地里山の認知促進として普段利用可能な散策マップへの情報抽出。
- ・市民の散策の促進にあたっては、来訪者増加に伴う問題の解決も想定し、コースの絞り込みや、マナー啓発(良心に訴えかけるマナー啓発、地域の小学生の絵や文字を使ったマナー啓発等)を、その方法も工夫しつつ取り組んでいく。
- ・実際の里山の保安全管理に関する情報のパネル展示もイベントや明治大学にて実施。

収穫祭にて

(1) 取り組みの前提として情報一元化

1) 第1回 専門部会でのワークショップ

①概要

◎日時 平成26年6月2日(月) 14:00~16:00

◎開催場所 明治大学黒川農場 会議室

◎出席者

A班 (セレス川崎、農業振興センター、川崎市みどりの協働推進課)

B班 (里地里山保全団体、神奈川県農政事務所、川崎市麻生区、川崎市 麻生区役所 道路公園センター 整備課、川崎市 みどりの協働推進課)

◎ワークショップの方法

2班に分かれて、それぞれの立場の人が持つ黒川の情報を出し合い、地図に張っていく。



ワークショップの様子

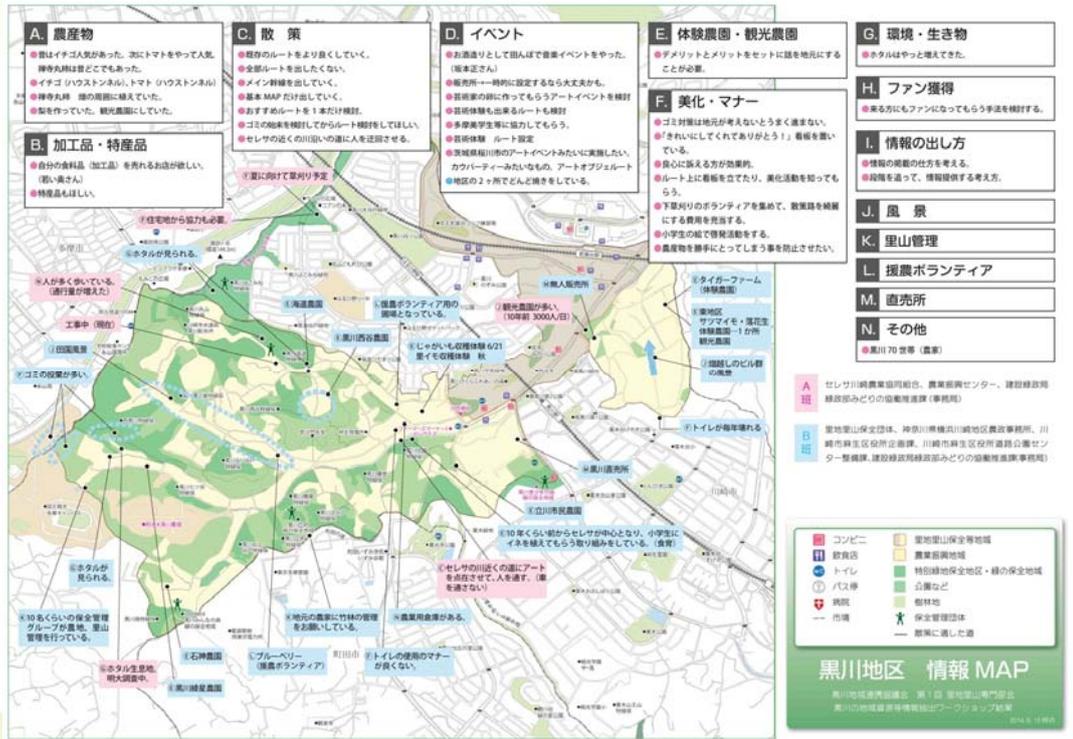


ワークショップ結果の報告の様子



ワークショップ結果

②黒川地区情報マップ (ワークショップより)



②ワークショップでの主な意見

カテゴリー	情報
A. 農産物	禅寺丸柿を昔はこの農家でも作っていた。また、梨を作っていた。観光農園にしていた。 今はトマトやイチゴをハウスで作っていて人気がある。
B. 加工品・特産品	若い農家の奥さん向けに、食料品や加工品を売れるお店が欲しい。 特産品がほしい。
C. 散策	全部ルートを出したくないので、メイン幹線と既存のルートをより良くしていく形や、おすすめルートを1本だけ検討してはどうか。 コースを示さず基本MAPだけ出していく。 ゴミの始末を検討してからルート検討をしてほしい。 セシサの近くの川沿いの道に人を迂回させると良い。
D. イベント	昔、お酒造りとして田んぼで音楽イベントをやった。 地区の2ヶ所でどんど焼きをしている。 芸術体験も出来るルートを検討。セシサの川近くの道にアートを点在させて、人を通す。 多摩美学生等に協力してもらうなど、芸術家の卵に作ってもらってアートイベントを検討する。 茨城県桜川市のアートイベントのようなものや、カウパティーマイミたいものを行いたい。 一時的になら販売所を設定する事も可能かも知れない。
E. 体験農園・観光農園等	東地区には観光農園が多い。特に昔は多かった(10年前3000人/日)。 10年くらい前からセシサが中心となり、食育として小学生にイネを植えてもらう取り組みをしている。 6月にじゃがいも収穫体験、秋にサツマイモ収穫体験が実施される。 東地区 サツマイモ・落花生の体験農園や観光農園がある。市民農園が増えているが、デメリットとメリットをセットに話を地元にする必要がある。

カテゴリー	情報
G. 環境・生き物	ようやくホタルが増えてきた。
H. ファン獲得	来る方にファンになってもらう手法を検討する。
I. 情報の出し方	段階を追って情報提供する等、情報の掲載の方法の検討が必要。
J. 風景	東地区の畑越しのビル群の風景が面白い。 実際に歩いて探した方が良い。
K. 里山管理	明坪里地里山用地:10名くらいの安全管理グループが農地、里山管理を行っている。 黒川広町緑の保全地域:地元の農家に竹林の管理をお願いしている。
L. 援農ボランティア	ブルーベリー生産をしている。 援農ボランティア用の圃場となっている。
M. 直売所	かつては直売所が数か所あったが、今はセシサモスで直売を行っている。
N. その他	黒川には約70世帯の農家がいる。



2) 地元町会、農業者へのヒアリング

①概要

- ◎日時 6月13日(金) 10:00~12:00
- ◎開催場所 緑農会館
- ◎出席者 黒川はるひ野管理組合、黒川町内会、川崎市 麻生区役所、川崎市 みどりの協働推進課

◎主な発言

地域の課題について	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、粗大ごみの大規模な撤去を行った事がある。 ・団体で散策に来ている人は比較的マナーが良いが、個人で来ている人に私有地に入ったり果実や農作物を持ち帰る人が見られる。 ・見えない所でゴミを捨てる人が多い。
地元町会や農業者との協力関係について	<ul style="list-style-type: none"> ・地元町会や農業者の意見を聞き、地域と協働出来る事については共通認識を持ち行う事により持続的な活動にしていく。 ・「明大ありき」ではなく「地元ありき」の対応をしてほしい。
市民による保全活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・初心者では保全活動は出来ないで、保全活動に参加してくれる人の育成の仕組みが必要。 ・ウォーキングイベント時に保全活動の参加者募集を兼ねると良い。 ・自然学習も一緒に行えると良い。 ・地元の山に関する知識を教える地元のインストラクターが必要。
イベントについて	<ul style="list-style-type: none"> ・観光協会でのウォーキングのイベントは年間約7回、毎回70名ほどの参加者。 ・ウォーキングだけでなく「自然観察」等の解説者を立てる等の工夫が必要。 ・マナーアップについて取り入れていくのは良い。(ゴミ拾いを組み込んだイベント 等) ・緑地と観光(アート)を一体としたイベントは行う価値がある。 ・イベント時に来訪者がお金を落していく仕組みとして、地元の人たちにも利益のあるものとしたい。

3) 地元(農業者)の方のガイドにより現地視察による情報の共有化

■概要

- ◎日時 6月27日(金)
- ◎開催場所 黒川地区内
- ◎方法
黒川はるひ野管理組合の野島氏の案内により、黒川地区を歩きながら、黒川での市民団体による緑地管理の状況や、以前問題となっていた不法投棄の状況の説明、現在の黒川の地区についてや農業について説明して頂いた。

◎参加者

- 明治大学黒川農場
- 里地里山保全団体
- 黒川町会
- JAせしサ川崎
- 神奈川県 農政事務所
- 川崎市 農業振興センター 農業振興課
- 川崎市 農業振興センター 農業技術支援センター
- 川崎市 麻生区役所 道路公園センター 整備課
- 川崎市 麻生区役所
- 川崎市 みどりの協働推進課

視察の様子



農政会館前(視察開始の挨拶)

市民団体管理箇所の視察
(多摩よこやまの道の上広場付近 斜面地)

多摩よこやまの道の視察

市民団体管理箇所の視察
(黒川海苔湖緑地果実地区 旧水田地)

地元(農業者)の方のガイドにより確認を行った地域資源や地域の課題の事項をまとめた地図



現地視察での主な情報

場所	説明内容
黒川はるび野管理組合	<ul style="list-style-type: none"> 多摩よこやまの道周辺の緑の管理をしている。 市では守りきれない(管理しきれない)緑を25名の地元農業者により、年に2回ほど管理を行っている。 メンバーは開発前から住んでいる地元農業者。今の所新住民を入れる予定はない。(園路脇の平らな箇所は新住民でも草刈りが出来るかも知れないが、斜面地は危険)
黒川谷津公園	<ul style="list-style-type: none"> 里山の原風景が残っている。 4年前から四枚の田んぼで「里山学校」が活動を行っている。「スジグロトタル」が見る事が出来るようになったという報告あり。絶滅危惧種を含む色々な動植物がいる。 土日等、「里山学校」など、ボランティアや観覧会の人達が活動を行っている日に合わせて公園の一般開放を行っている。
多摩よこやまの道	<ul style="list-style-type: none"> 尾根に沿った道で、東海道として昔の主要道路。調布にある小田道は山側を通っていた。 園路の脇の草刈りを行うことによって、見晴が良く散策を楽しんでもらっている。多摩市側では草刈りをした草を搬出するが、川崎市側では刈った草を敷均している。 昔は切った木をシタケのほだ木や炭焼き用にしていたが、今は木が大きくなりすぎ、適さなくなりました。 芸術作品の展示等を行うのに適しているのではないかと。 丘の上広場近くの市民団体活動場所は見晴がよく、天気によければ横浜の街が一望できる。昔は筑波山まで見る事が出来た。
西黒川特別緑地保全地区西側	<ul style="list-style-type: none"> 昔は不法投棄が多かった。カメラ及び注意の音声を付けたところ不法投棄は減った。
黒川よこみね特別緑地保全地区	<ul style="list-style-type: none"> 昔、田んぼだった。 水辺のある里山を守る会が、草刈り、遊歩道の整備、樹木・竹林の間伐、在来生物の生息空間の整備、保護・育成の活動をしている。 ノハナショウブが生、カワセミがよく訪れる他、ホテルが見られる。 木道が出来、中を歩けるようになった他、枕木の椅子がある。 もともと水田であった土地を小田急が購入。30年ほどほおっておかれていた。
黒川海道特別緑地保全地区	<ul style="list-style-type: none"> 川崎市が里地として管理を使用という事で小田急から購入、地元の農業者からなる「黒川の緑地管理協議会」のメンバー35人で管理を行っている。 いずれは散策できるようにしていきたいが、当面は水路の管理を目指している。 山に深く入り込んで言っている地形で、クヌギやタケ等が生え、谷戸らしい植生である。 場所的にはホテルの出る環境であるので、ホテルの乱舞する場所にしたい。

視察後意見交換での主な意見

カテゴリー	意見
黒川の環境について	<ul style="list-style-type: none"> 想像以上に自然が多かった。人のおいがあまり感じられず、緑が多いだけではさびしい感じを受けた。もっと活用していく場所になると良い。 黒川の開発の時の川崎市の方針は緑を残す事であった。これからこれらの緑をどうしていくかが課題。
イベントについて	<ul style="list-style-type: none"> 多摩よこやまの道の尾根沿いの道の下草刈りを行い、そこに芸術作品等を飾る事が出来れば良いと考えている。人里に降りてきた辺りをどうするかは検討が必要。 大勢の人が集まる事で、地元の人たちの収益になるような事も考えていかなければならない。里に下りて来た時に花や野菜を買ってもらえるようにし、収入にも交流にもなるようにした方がよい。 今年は11月の収穫祭時に散策イベントを行おうと考えている。 野外活動として子どもたちを山に連れていき、自然を感じさせるだけではなく、地域の人との関わりを持たせていく事を意識する事が重要である。 地元の人にガイドを頼む仕組みが出来ると良い。 野外活動センターの子どもたちとどう関係性を持たせるかも重要である。今回20年後、30年後の未来を見据え、その時に力となる子供たちをどう育てていくかが重要である。
地元町会や農業者との協力関係について	<ul style="list-style-type: none"> 地元の人たちがどれくらい参加してくれるか話を聞き、考えていかなければいけない。 農家の高齢化や兼業化で地元の人達だけで農業を行うのは難しく、貸農園とする事も致し方ない。 貸農園が景観の一つになっているので、その人たちをどのように参加させるかの検討も必要だと思う。実際には農の景観の半分くらいを外から来た貸農園を借りている人が作っている。 貸農園の借主は周辺の草刈り等も行ってきており、貸農園も黒川の耕作主の1部になってきているため、貸農園の借主たちの連携も大切。 美化活動としては行っているが。畑をおこなっていない人の場所や、変電所の周辺では手が行き届いていない。 貸農園の人たちで蕎麦屋など食堂をやってもらえるのはどうだろうか。外の人たちは多様性があり、蕎麦打ちにも興味があると思われる。

4) 情報の一元化からみた今後の方向性

	カテゴリー	方向性
① ワークショップ	イベントについて	<ul style="list-style-type: none"> 未来の担い手である子どもたちも意識し、地元の人との関わりを持たせる。 マナーアップについて取り入れていく。 緑地とアートを一体としたイベントは行う価値がある。 アートイベントについては、地元農業者の収益につながる事、交流につながる事への配慮が必要。
② 地元町会、 農業者へのヒアリング	黒川の里地里山環境について	<ul style="list-style-type: none"> 散策イベントについては地元の人にガイドやインストラクターを行ってもらう。 美化活動を行っているが手が行き届いていない場所の改善が必要。 黒川の環境をもっと活用していく。 「自然観察」等の解説者を立てる等の工夫。
③ 現地視察による 情報の共有化	人材について	<ul style="list-style-type: none"> 地元町会や農業者の意見を聞き、地域と協働出来る事については共通認識を持ち行う事により持続的な活動にしていく。 貸農園の借主は周辺の草刈り等も行ってきており、貸農園も黒川の耕作主の一部になってきているため、貸農園の借主との協働も視野に入れる。 地域の人と来訪者の関わりを持たせていく事が必要。 多摩美学生等に協力してもらい、芸術家の卵に作ってもらうアートイベントを検討する。 保全活動に参加してくれる人の育成の仕組みが必要。

方針	今年度の取組み	次年度の取組み
(1) 保全管理 体験の検討		(1) 保全管理体験の検討 ①大学生と小学生での“ピオープ作り” ②地元の人と大学生での“自然遊び道具作り” (2) 里地里山の認知促進 ③黒川マップの活用推進PR
(2) 里地里山 の認知促進	1) 取り組みの前提として情報一元化 2) 里地里山の認知促進、保全管理体 験、大学連携の一体的取り組み	
(3) 里地里山 を活用した大 学連携・地域 コミュニティ づくり	3) 大学と連携した黒川地区の里山 活動のPR	

(仮称)黒
川デザイ
ン祭(プ
レ)



収穫祭での取組み



(2) 体験型散策イベント

■里地里山保全利活用専門部会の目的と方向性

目的：多摩丘陵の里地里山の地域的価値を見出し、里地里山の保全、再生、活用を目指す。

取組みの方向性

取組みの方向性1
里地里山
保全管理体験の推進

取組みの方向性2
里地里山の認知促進

取組みの方向性3
里地里山を活用した
大学連携・地域
コミュニティづくり

■体験型散策イベントの目的

地域の活性化や交流を通し、持続的な里山環境の保全と活用を目指し、当専門部会の3つの方向性に関して、一体的に取り組む「体験型散策イベント」を開催する。

体験：里山体験や散策を通じて、里山での遊びや環境について簡易体験をして頂く。

認知促進：里山の管理や、地域の魅力を知って頂く。

大学・地域連携：大学や地元住民との関わりを通して、里地里山環境の保全、再生、活用について考えたり、行動するきっかけをつくる。

■開催概要

内容：黒川地域を歩きながら、里地里山での簡易体験イベント行う事によって、人との生活とともにある里地里山の環境、身近なものとして肌で感じる。

日時：2014年11月8日(土)9:00～12:00

スタート：はるひ野駅 南口駅ロータリー

ゴール：明治大学 黒川農場

方法：ツアー型

(ガイドとともに黒川地区の散策を行うとともに、途中の数か所のポイントで里地里山を活かした体験を行う)

■参加対象

ツアー1「親子で楽しむ 里地里山体験ツアー(ガイド付き)」

:親子

ツアー2「地元農業者と歩く 黒川の里山の魅力発見ツアー(ガイド付き)」

:一般

◆ ツアー1 親子で楽しむ 里地里山体験ツアー (ガイド付き)

概要 :親子で里山を散策しながら、里山での遊びを楽しむとともに、黒川の里地里山環境の魅力を伝え、親しみを感じてもらう

今後の「黒川地域連携協議会」の活動に向け、子どもや母親の目線から見た里地里山の活用や魅力についての意見や感想を頂く

対象 :小学生とその保護者

想定人数:15組

開催時間:9:15~12:00

募集方法:公募(黒川の小学校に協力依頼、黒川地区の自治会で回覧)

実施方法:・ガイドとともにツアー形式で散策を行う。

・2か所で遊び(イベント)による里山体験を行う。

・里山体験行った2か所で体験後にスタンプを押す。

ガイド :和光大学の学生と明治大学生(案)

コース案



□ イベント1

～里山の材料を使って遊ぼう～

里山にある竹や草、枝などを使って遊び道具を作って、遊ぶ

時間 : 9:45~10:30 (約45分間)

開催場所 : 黒川海道特別緑地保全地区(管理エリア)

体験内容 : 竹ぼっくり、草笛、竹弓など

説明者 : 和光大学学生

必要な備品 : 竹ぼっくり、竹弓など
草笛に適した植物



竹ぼっくり



竹弓

9:45	到着
9:45~9:50	「里山の材料を使って遊ぼう」の説明
9:50~10:25	イベント開催(35分)
10:25	マップにイベント達成スタンプ
10:25	集合、記念撮影、人数確認
10:30	移動開始

□ イベント2

～黒川の宝さがし～

里山の中で宝探しをして、見つかった人から黒川で採れた採れたて野菜を味わう

時間 : 11:00~11:45 (約45分間)

開催場所 : 黒川広町特別緑地保全地域

体験内容 : 里山の中での宝探しと黒川野菜の試食

説明者 : 和光大学学生

必要な備品 : 宝(黒川の魅力を描いた絵と単語で表したカードを想定)、
黒川産の野菜

11:00	到着
11:00~11:05	収穫方法の説明 (見本を見せる)
11:05~11:40	イベント開催(35分)
10:40	マップにイベント達成スタンプ
11:40	集合、記念撮影、人数確認
11:45	移動開始

◆ ツアー2 地元農業者と歩く 黒川の里山の魅力発見ツアー (ガイド付き)

概要 :黒川を良く知る地元の方と一緒に歩き、黒川の歴史、魅力を発見する
 今後の「黒川地域連携協議会」の活動に向け、一般の方の目線から見た里地里山の活用や魅力についての意見や感想を頂く

対象 :収穫祭に来場される市民

想定人数:30人

開催時間:9:00~12:00

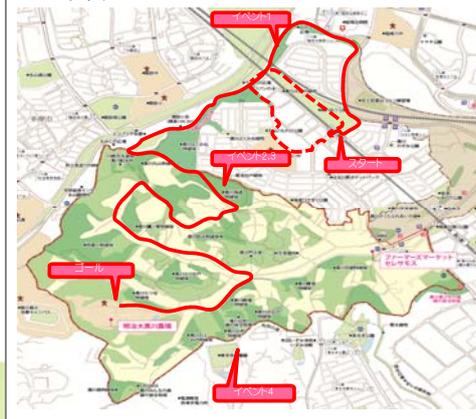
募集方法:公募(麻生区役所窓口のチラシ配布)

実施方法:・ガイドとともにツアー形式で散策を行う。

- ・ 散策の途中で地元の方の話を聞く。
- ・ 散策の途中で簡易的な里山管理の体験をする。

ガイド :地元農業者

コース案



□ イベント内容

○ イベント1

～黒川地区を俯瞰する～

黒川の地域の方々が管理をしてくれているビュースポットで黒川地区を俯瞰する。

場所:「丘の上ひろば」付近

○ イベント2

～黒川の里地里山の風景を守っている活動を知る～

黒川で谷戸の原風景を守っている活動について知る。

場所:黒川海道特別緑地保全地区

○ イベント3

～里山管理体験と、黒川野菜の実食～

草刈り体験を行い、体験後に体験場所で黒川野菜を食べる

場所:黒川海道特別緑地保全地区(中央広場部分)

○ イベント4

～黒川地区の里地里山の魅力を知る～

地元農業者や、里山管理を行っている方と一緒に、黒川の魅力を感じながらウォーキングする。

場所:はるひ野駅から明治大学黒川農場まで